

米倉会長の留任決める

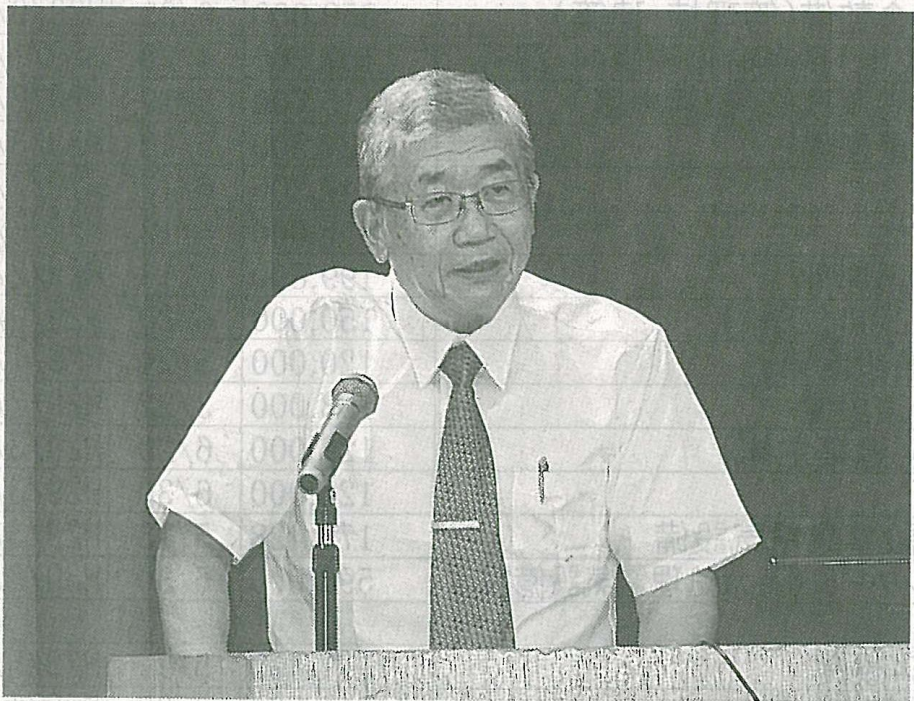
広島県コンクリート診断士会

広島県コンクリート診断士会(米倉亜州夫会長)による第6回通常総会が13日、広島市中区の広島工業大学広島校舎で開かれた。総会では、2カ月

業内容等を報告し、関連議案を承認。役員改選も行われ、米倉会長ら主要役員

の留任も決めた。同会は診断士の技術力、社会的地位の向上などを目的に平成23年に設立。会員数は設立時の正

会員58人・賛助会員17社から、現在は正会員77人、賛助会員27社にまで増えた。米倉会長は挨拶で、設立から5年間の実績を振り返り、「定例サロンに加え、コンクリート探偵会、最近では平和の灯の調査



あいさつする米倉会長

など、事業が充実してきた。今後ますます活動が活発化することを期待している」と述べた。

【会長】米倉亜州夫(米倉社会インフラ技術研究所) 【副会長】鈴木智郎(復建調査設計)

続く議事では、平成27年度の事業報告や収支決算報告、28年度事業計画案や収支予算案などを審議し、全会一致で承認。28年度事業では、隔月開催の定例サロンによる技術交流、親睦事業のほか、調査・診断・補修技術の情報提供、コンクリート施設管理者への技術支援などの活動を継続してい

【理事】岡田繁之(代表理事、極東興和)、徳納剛(事務局長、福徳技研)、峯松昇司(井上建設) 【監事】西村勝彦(戸田建設) 【顧問】十河茂幸(広島工業大学) 【事務局】徳納剛、峯松昇司、江良和徳(極東興和)、佐々木大輔(広島ガステクノ・サービス)

くとした。

このほか、総会後には会員有志の協力により今年5月に実施した「平和の灯健全度調査」の結果について、鈴木智郎副会長が概要を報告。立命館大学理工学部特任教授の岡本享久氏による記念講演「コンクリートの持つ多様性の再考」も開かれた。

新役員は次の通り。

(敬称略)